

第2期君津市「まち・ひと・しごと創生」総合戦略策定方針【概要版】

～希望に満ちた君津の未来～

◎これまでの取組みの検証 (総括)

【基本目標1】地域内経済を活性化させることで、安定した雇用を創出する。
 (数値目標) ※目標値⇒現状値
 ○市内事業者従業員数 38,330人 ⇒37,439人 (-891人)
 ○農産物販売金額 70億4,850万円 ⇒92億5,000万円 (+22億150万円)
 (成果・課題)
 ○創業支援センターの開設○空き店舗等を活用した創業支援○農地集約○女性やシニア世代の就労支援など⇒特に若い世代や女性にとって、働きやすい魅力的な「しごと」を創出していく必要がある。

【基本目標2】新たなひとの流れを創出し、地域内へのひとの流れを促進させる。
 (数値目標) ※目標値⇒現状値
 ○年間転入者3,499人⇒3,288人 (-211人)
 ○年間転出者2,747人⇒2,828人 (-81人)
 (成果・課題)
 ○空き家バンク制度○移住者への相談体制の充実○房総さとやまGOの運行○各種キャンペーンやホームページの充実など⇒本市への「ひと」の流れを受け止めるための住宅施策、本市に留まってもらうための取組みを考えていく必要がある。

【基本目標3】地域が一体となり、安心して出産・子育てできる環境を整える。
 (数値目標) ※目標値⇒現状値
 ○合計特殊出生率1.58⇒1.40 (-0.18)
 ○子育て支援施策の満足度-0.05⇒今後調査
 (成果・課題)
 ○男女の出会いの場を創出○不妊治療助成や産後ケア、病児・病後児保育など⇒今後も共働き世帯・核家族化の進展により、子育てニーズが高まることから、誰もが安心して妊娠・子育てができる環境を包括的に整えていく必要がある。

【基本目標4】地域ごとに、持続性を担保しつつ活力ある地域を維持するため、市内の人口動態を明らかにし、時代に適合した新たなまちづくりをすすめる。
 (数値目標) ※目標値⇒現状値
 ○住みやすさ度-0.11⇒今後調査
 (成果・課題)
 ○高速バス君津新路線の開設○JR久留里線の利用促進○コミュニティバス・デマンドタクシーの運行○自主防災組織の設立支援○自主的な防犯活動の支援など⇒公共施設の適正配置や交通網の充実を図るなどエリアマネジメントの視点に立ち、まちづくりを推進していく必要がある。

【全ての基本目標 (市民協働の推進)】 (成果・課題)
 市民活動団体等が主体的に行う活動を支援するなど市民協働を推進した。
 ⇒今後も多様化・複雑化するニーズに対応していくため、多くの「ひと」の活躍、つながり、分かち合いが「希望に満ちた君津の未来」のエンジン(原動力)となるよう、より一層の市民協働の推進を図っていく必要がある。

基本目標ごとの数値目標では、戦略策定時に比べ改善が見られるものもあるが、本市の人口減少の克服に結実する成果が得られていない状況である。
 86,999人(平成27年度末)⇒84,322人(平成30年度末)-2,677人 ※住民基本台帳

次期総合戦略の策定にあたっては、基本目標ごとの課題に対して真正面から向き合い、未来思考(バックキャスティング)でアプローチしていくとともに、施策間の連携(パッケージ化)による効果の最大化を図る必要がある。

【趣旨】

君津市「まち・ひと・しごと創生」総合戦略(計画期間:平成27年度～令和元年度)が、令和元年度をもって終了することから、これまでの取組みを検証し、国の動向等を勘案しながら、第2期君津市「まち・ひと・しごと創生」総合戦略を策定する。

【計画期間】

令和2年度から令和4年度まで(3年間)
 本市の最上位計画である君津市総合計画の計画期間(平成25年度～令和4年度)との整合性を図るとともに将来的な総合計画と総合戦略の一体化を見据える。
 ※計画期間中においても、社会経済情勢の変化や国の動向等に応じて適宜見直す。

【位置づけ】

市の総合計画の総仕上げとなる第3次まちづくり実施計画における重点施策を戦略的に推進するための行動計画(アクションプラン)として位置づけるとともに、次期総合計画を考えていくうえでの先導的な役割を担う。

◎基本的な方向性 (考え方)

国では、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に向けての基本的な考え方として、これまでの取組みの検証を踏まえ、基本的な枠組みを維持しつつ必要な見直しを行うとともに、新たな視点として、以下の施策を推進することとしている。

《国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における新たな視点》

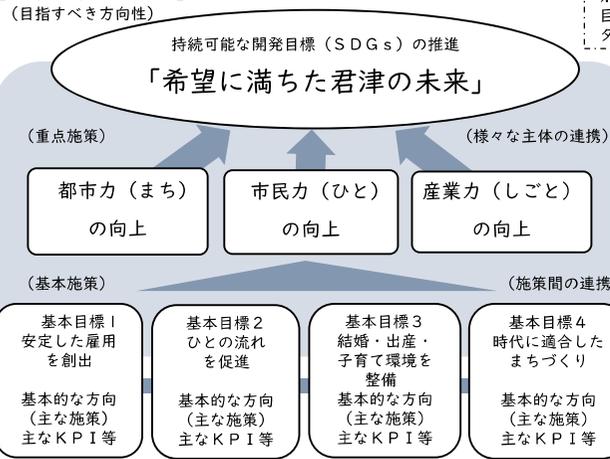
- ①「民間と協働する」(地域の担い手、企業) ②「人材を育て活かす」(人材の掘り起こし、育成等) ③「新しい時代の流れを力にする」(Society 5.0の実現等) ④「地方へのひと・資金の流れを強化する」(関係人口等) ⑤「誰もが活躍できる地域社会をつくる」(女性、高齢者、外国人等) ⑥「地域経営の視点で取り組む」(ストック活用、マネジメント等)

※Society 5.0…IoT、ロボット、人工知能(AI)、ビッグデータ等の新技術をあらゆる産業や社会生活に

本市においても、国の動向等を勘案しながら、取り入れイノベーションを創出し、一人ひとりのニーズに合わせる形で社会的課題を解決する新たな社会。

- ①現総合戦略に掲げた4つの基本目標の数値目標や施策ごとに設定したKPIの進捗状況等を検証
- ②直近の統計データ等に応じた君津市人口ビジョンの見直し
- ③千葉大学・市原市との人口維持に向けた若者回帰戦略研究⇒これらを踏まえ、次期総合戦略を策定する。
 ⇒基本目標ごとの施策を先導、横断するものとして「都市力(まち)の向上」「市民力(ひと)の向上」「産業力(しごと)の向上」に資する取組みを重点施策(重点戦略プロジェクト)として位置づけ推進する。
 ⇒次期総合戦略の推進にあたっては、国際社会全体の目標でもある「持続可能な開発目標(SDGs)」の考え方などを取り入れ、地域内外の様々なステークホルダーが立場を超えて連携し、誰一人取り残さない「希望に満ちた君津の未来」を実現する。

【施策体系イメージ】



【SDGsロゴ】



◎策定体制

- (1)市民参加…これまでに行った「市民意識調査」「転出者アンケート」、今後予定する「結婚・出産・子育てに関する意識調査」「転入者アンケート」を活用するほか、若者や女性をはじめ幅広い意見が反映されるよう各種団体等との意見交換を行うなど対話の機会を設ける。また、まちづくり意見公募手続き(パブリックコメント)により、市民の意見を聴取する。
- (2)市議会…策定状況について適宜報告を行い、意見を伺う。
- (3)君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議…産・官・学・金で構成。広く有識者からの意見を聴取するなど内容の検討を行う。
- (4)庁内体制…全庁横断的な組織体制として「未来創造戦略本部」を設置し、庁内一丸となって取り組んでいく。
 ア 未来創造戦略本部会議(庁議)…市長、副市長、教育長、各部の長で構成。全庁的な総合調整、重要事項などを審議する。
 イ 未来創造戦略幹事会議(主管課長会議)…各部主管課の長で構成し、素案の検討、調整などを行う。
 ウ 市長と若手職員による座談会…若手職員の柔軟で斬新なアイデアを聴取する。
 エ 事務局…企画政策部企画課
 ※「未来創造戦略本部」は、次期総合戦略の位置づけなどを踏まえ、今後設置予定の総合計画の推進体制と併せることで、一体的な運用を図っていく。

◎策定スケジュール

		令和元年度										
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
作業内容	共同研究	データ収集 人口推計（速報）			未来カルテ作成・人口推計 （地区別推計）・経済環境分析			政策提言		報告案		研究完了
	人口ビジョン	データ収集・見直し										
	次期総合戦略	効果検証・方針検討			施策・KPI等検討			素案検討				公表
外部組織等	市民参加	各種アンケート・各種団体等との意見交換							パブコメ			
	有識者会議	1回目		2回目		3回目			4回目			
	市議会	方針報告				素案報告			最終案報告			
庁内体制	未来創造戦略本部会議（庁議）	方針審議		中間報告		素案審議			最終案審議			
	未来創造戦略幹事会議（主管課長会議）	方針検討		中間報告		素案検討			最終案検討			
	市長と若手職員による座談会		座談会									